

■長井雅楽 長州藩士。"智弁随一"と称せられ、藩政中枢にあって公武合体論を主張したが、藩論一変で切腹に至った。
ながいうた
群書類従完結1819＝ 長門国萩松本村字中ノ倉で、毛利氏と同じ大江広元を祖とし、備後の豪族を経て毛利氏家臣として三百石の大組(馬廻士)となるが、百五十石に半減となっていた長井泰憲の第五子に生まれる。
英船浦賀来航1822＝ 3歳： 兄・姉すべて夭折していたため、父が病死すると、家督をつぐ。

シボム事件・1828＝ 9歳：

富嶽三十六景1831＝12歳： この年、藩で大一揆が起こる。
藩校{明倫館}に学び、
学問は山県太華に師事し、剣術は平岡弥三兵衛、槍術は小幡源右衛門、馬術は蔵田門之助、弓術は山県十蔵、砲術は森重政之助について、その腕を磨き、
・・・ 1836＝17歳： 藩に出仕、大番所詰めを命じられるが、大一揆の余波が続くなか、風水害が起こり、10・11・12代藩主が相次いで死去するという藩の一大事に、
大塩平八郎乱1837＝18歳： 毛利敬親が13代藩主を襲封するや、その小性役に取り立てられ、

阿部正弘首座1845＝26歳：
孝明天皇・・・1846＝27歳：

国定忠治磔・1850＝31歳： 奥番頭格に異例の昇進をし、{明倫館}内用掛も勤める。
尊徳報徳論・1851＝32歳： 藩主が迎えた養嗣子明敬の傳役も命じられ、
万次郎帰国・1852＝33歳： 萩の{明倫館}内に移住してきた明敬の君主教育に当り、
ペリー来航・1853＝34歳： ペリー来航の翌年、
開国開港・・・1854＝35歳： 明敬が正式な世子定広となり江戸に出るのに従って移住、最新の国際情勢に接することになる。
安政大地震・1855＝36歳： この年、萩に西洋学所が設置され、
松下村塾・・・1856＝37歳： この年、洋式船が建造される。
五ヶ国条約・1858＝39歳： *萩に戻り、直目付となり、記録所役をも兼ねて藩政の中枢に参画、周布政之助と並んで長州政治家の双壁とされ、"智弁随一"と称せられ、やがて三百石に復し、中老格に列し、安政の大獄に際しては、
安政の大獄・1859＝40歳： 吉田松陰を処刑のため江戸に送る幕府の命令書を持ち帰る役となり、
桜田門外変・1860＝41歳：
遣欧使節・・・1861＝42歳： *公武一和の立場に立って「航海遠略策」と称する独自の開国詮を草して藩是とし、公武間を周旋。開国策と公武合体策とを重ね合わせたものであったから、幕府(久世・安藤政権)もこれに期待をかけたが、松下村塾門下を中心とした尊攘派の台頭で藩論は"破約攘夷"へと一変、
生麦事件・・・1862＝43歳： *朝廷に対する尊攘派の画策、雅楽を支持した久世・安藤政権の崩壊、さらに薩摩藩の島津久光の率兵上京などにより、"姦物姦計"の非難を浴び、中老格を免じられて帰国待罪の命を受け、
8月18日政変 1863＝44歳： 切腹し、没した。